

平成 18 ( 2006 ) 年度

第 2 回知床エコツアーリズム推進協議会

議事概要

## 第2回知床エコツーリズム推進協議会 議事概要

平成18年(2006年)12月11日 13:30~15:30 於:羅臼町商工会館2階ホール

出席者:別紙出席者名簿を参照

### 会議次第

- 【1】 挨拶
- 【2】 出席者紹介
- 【3】 議事
  - 1) 平成18年度事業中間報告について
  - 2) 知床エコツーリズム推進実施計画(案)について
  - 3) 知床エコツーリズムガイドライン(案)について
  - 4) 知床エコツーリズムフォーラムについて
  - 5) その他

平成18年度 第2回知床エコツーリズム推進協議会開会

### 【1】挨拶

#### 辻中副会長:

今年度第2回目のエコツー推進協議会、羅臼での開催となりましたが、皆様師走に入りましてお忙しいところ、当協議会にご出席を賜りまして心から御礼申し上げます。本日は当協議会の上野会長は、はずせない用務のため欠席ということでありまして、辻中、お前進行をしろと、ご命令をいただいております。特に、議事、議題につきましては、事前に皆様方に配布をさせていただきました資料を基に議論をさせていただきます。エコツーリズムの推進自主計画については、今回はじめてのご説明となります。エコツーリズムガイドラインにつきましては、前回の協議会でもご議論いただきましたが、その後WGのほうで協議を重ねた内容に着きまして、今回さらにご意見を頂きたいと思っております。また今年度は第3回目の推進協議会を3月に開催いたします。そこで推進実施計画を成案というようなことになるかと思っております。本日はいずれにしましても、どうぞ皆様方の有意義なご意見をいただけます様に、お願い申しあげまして挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

**渋谷所長（環境省釧路自然環境事務所）：**

このエコツーリズムの推進協議会は平成 16 年から始まって、はや、取りまとめの年 3 年目を迎えました。昨年は知床世界遺産になりまして、利用者の増加に伴う遊歩道の荒廃、利用上の注意などいろいろな問題も起こっておりまして、利用者の方々に正しい利用していただくという意味からもエコツーリズムの出す役割も大変大きくなってきています。3 ヶ年事業のエコツーリズムのモデル推進事業は、19 年度から実施に入ることを目標としまして、知床のエコツーリズムを推進する為の普及定着、あるいは推進実施計画、エコツーリズムガイドラインなどについて、各 WG で勢力的に検討が行われてきました。このエコツーリズムに関しては国会でエコツーリズム推進法が制定されるかという話もありましたが、基本法の審議の経過もありまして当国会の方では難しいという状況があるようではございます。ただ、おそらくは次の国会くらいで、おそらく制定ができるのではないかと考えております。それに先行して地域での推進を行う言う意味で、非常にこの推進協議会の役割は大きいと考えております。各団体の方々に関わりましては、今後ともよろしくご審議を頂いて建設的なご意見をいただけたらと考えております。最後に、来年は他の世界遺産とともに国際的にもこの動きを発表する機会もあるかと思えます。ぜひ知床でのそれぞれの成果を成案としていただいて世界に発信できたらと考えておりますので、よろしく願いいたします。

**【 2 】出席者紹介**

自己紹介（別紙出席者名簿参照）

**【 3 】議事**

進行：副会長

1 ) 平成 18 年度事業中間報告について・・・・・・・・・・(資料 )

**事務局（知床財団）：**

資料に沿って説明

**質疑なし**

2) 知床エコツアーリズム推進実施計画(案)について・・・(資料)

**事務局(知床財団):**

資料に沿って説明

**質疑**

**林野庁北海道森林管理局:**

- ・この計画はどれくらいの期間を想定したものなのか?
- ・ガイドの認証制度については、整理表の方で触れられているが本文には記述がない。
- ・前回の協議会でも取り上げたが、ガイドの利用状況の把握をしていただきたい。
- ・独自財源の中で観光協会による拠出金について記載されているが、これは斜里町の観光協会だけなのか?

**事務局(知床財団)**

- ・5年程度の期間を想定した計画である。もちろん知床のエコツアーリズムをとりまく状況や環境は変化していくことが予想されるので、今後の検討の中で見直しをかけることもありうる。
- ・ガイド認証制度については、まずはガイドラインを適正に運用することを優先させ、それが達成できたのちにガイドラインを発展させるかたちで認証制度の検討に入りたい。本文の方にも記述し修正する。
- ・ガイドの利用状況の把握については必要事項だと考えているが、環境省の利用適正化検討会議などとも連携して検討したい。
- ・現在のところ、運用の予定があるのは知床斜里町観光協会による環境保全のための基金のみである。

3) 知床エコツアーリズムガイドライン(案)について・・・(資料)

**事務局(知床財団):**

資料に沿って説明

**質疑**

**林野庁北海道森林管理局：**

- ・ 羅臼湖における長靴の利用について、歩道がぬかるんでいるときのみの利用ではなく、植生保護のために常に長靴を利用するようなルールにできないか。
- ・ 「動植物の採取」という表現についてだが、植物は「採取」だが動物は「採捕」が正しいのではないか。

**事務局（知床財団）：**

- ・ 歩道がぬかるんでいないときも含めて常に長靴を利用することは現実的ではない。ガイドは毎日のように現地を訪れており、歩道の状況については把握できている。ガイドの判断にまかせたい。
- ・ 語句の使い方については調べさせていただく。

4) 知床エコツーリズムフォーラムについて

**事務局（知床財団）：**

資料に沿って実施内容、スケジュール等の説明

地域の皆様のご参加をお待ちしております。ご協力よろしくお願ひいたします。

5) その他

**事務局（知床財団）：**

- ・ 今後のスケジュールについて確認。次回平成 18 年度第 3 回推進協議会は 3 月中旬を予定。
- ・ 羅臼冬のエコツアープログラム「流水の海の漁業見学体験」について説明

**辻中副会長：**

本日はありがとうございました。本モデル事業も最終年度となり、3月に最後の推進協議会を予定しております。それまでに、本日も意見をいただいた「知床エコツーリズムガイドライン」、「知床エコツーリズム推進実

施計画」について最終的な検討を行い、次回皆様にお諮り致しますので、  
よろしくお願いたします。

平成 18 年度 第 2 回知床エコツアーリズム推進協議会閉会

平成18年度 第2回知床エコツーリズム推進協議会出席者名簿 平成18年12月11日 羅臼町商工会館

区分	構成団体・機関	会議出席者
構成団体	斜里町商工会	
	知床斜里町観光協会	
	知床温泉旅館協同組合	
	知床民宿協会	
	斜里第一漁業協同組合	
	ウトロ漁業協同組合	
	斜里町農業協同組合	
	斜里ハイヤー株式会社	
	道東観光開発株式会社	
	斜里バス株式会社	
	知床自然保護協会	
	斜里山岳会	会長 遠山和雄
	知床ガイド協議会	代表 石見公夫
	(社)北海道ウタリ協会斜里支部	
	羅臼町商工会	事務局長 浦崎頼夫
	知床羅臼町観光協会	副会長 佐藤哲雄
	羅臼町・知床世界自然遺産協議会	会長 辻中義一
	羅臼町旅館組合	組合長 本間正子
	羅臼漁業協同組合	指導部管理課長 竹田和人
	羅臼遊漁船組合	事務局長 石見公夫
羅臼町酪農振興協議会	会長 荒井順一	
阿寒バス株式会社	副所長 田川英敏	
羅臼ハイヤー株式会社		
羅臼山岳会	副会長 佐々木泰幹	
(社)北海道ウタリ協会羅臼支部	支部長 大木篤志	
協議会事務局	北海道本庁	主幹 近藤哲司 ・ 主査 長谷川浩幸
	網走支庁	環境生活課長 須藤進 ・ 主事 佐々木恒介 ・ 商工観光係長 安彦秀徳 ・ 観光振興係 熊谷洋平
	根室支庁	自然環境係長 東雅永 ・ 観光振興係長 池田憲浩
	羅臼町	環境管理課長 木村幸治 ・ 水産商工観光課長 寺澤哲也 ・ 商工観光係長 川端達也 ・ 自然保護係長 田澤道広
	斜里町	環境保全課長 村田良介 ・ 自然保護係長 増田泰 ・ 観光係 村上和志
	知床財団	事務局長 山中正実 ・ 普及研修係 寺山元 ・ 田中直樹 ・ 坂部皆子
関係行政機関	環境省釧路自然環境事務所	所長 渋谷晃太郎 ・ 国立公園企画官 田辺仁 ・ 保全整備課長補佐 川淵義昭 ・ 自然保護官 奥田青州
	ウトロ自然保護官事務所	首席自然保護官 河野通治 ・ 自然保護官 平井泰
	羅臼自然保護官事務所	自然保護官 安藤弘 ・ 若松徹
	林野庁北海道森林管理局	自然遺産保全調整官 井上正
	根釧東部森林管理署	署長 星光憲 ・ 流域管理調整官 朝倉基博
	網走南部森林管理署	
	知床森林センター	所長 谷本哲朗 ・ 緑化第一係 佐久間祐子